

建設標

眞子さま巡る報道に違和感

私は、秋篠宮家の長女眞子さまと婚約内定中の小室圭さんの報道を見るたびに、「普通の恋愛をさせてあげられないのかな」とかわいそうに思います。

著名人を含め、どんな立場の人であっても、人間である以上、異性問題、金銭問題、病気、仕事の問題など、さまざまな問題を抱えています。強がって平然

と過ごしているように見せていても、弱い部分を持っているのです。そこを、あえてほじくり出すのではなく、そっと包帯で包んであげるのが同じ人間の務めではないでしょうか。

弁護士という職業柄、通常他人には知られたくない、いわば人間の機微に触れることも多々あります。そんな私は、小室さ

んたちの私生活上の紛争といった、通常公表する必要のない内容について、週刊誌ではなく新聞でも報道がなされるたびに違和感を覚えます。

小倉百人一首で「恋すてふ我が名はまだき立ちにけり人知れずこそ思ひそめしか」と歌った壬生忠見みねのたけみであれば、現代の情報手段が発達した時代に、どのように歌うのでしょうか。

長野市 板谷健太郎

(弁護士・46)